

序 言

わが国特殊鋼製造の歴史を顧ると、そこには先輩諸氏の血のにじむ努力と、営々として飽くことを知らぬ探究研究の結晶の積上げられた成果が見いだされ、我々特殊鋼製造に従事する者として、この輝かしい伝統を引継ぎ、さらに発展せしむべき責務の重大さをひしひしと感ずるのである。業界の消長も国と運命を共にし、戦後は荒廃したが、幾多の混乱を克服し、再び今日の隆盛を見るにいたったことは真に同慶に存じ、業界諸氏の努力に対し深甚なる敬意を表する次第である。従来から日本鉄鋼協会主管の研究部門に特殊鋼部会があり、この時期にも常に営々とした研究活動を続け、肌焼鋼あるいは原料について幾多の輝かしい成果を残し、斯界に貢献するところ多大であつた。その後昭和29年にいたり通商産業省重工業局、日本鉄鋼協会、日本鉄鋼連盟の鉄鋼技術共同研究会が結成され、多くの部会が設けられるにおよび、わが特殊鋼部会も構成を新にして、特殊鋼業界の当面の緊急事を研究することになつた。爾来今日まで委員各位の熱意により16回の研究会が開催され、常に盛んな討議が繰返され結論が導かれている。今回報告される内容を検討されるならば本部会の研究がいたずらに机上のものでなく、現場から生れた実績であり、またそれから推論されたものであることが明らかに諒解されるであろう。

この4年間になされた本研究の内容は、特殊鋼製造会社の作業に採り入れられ、近年の著しい進歩を力強く推進したのである。わが国の特殊鋼が諸外国に比し極めて苛酷な規格に合格し、優秀な材料として機械工業、自動車工業その他に利用せられ、わが国工業水準を高度のものとし外国に劣らないほどの伸張を将来しつつあることは偏に各委員会社の熱意と委員各位の努力の賜であり、茲に深く感謝する次第である。

昨34年の第10回研究会までの内容につき、ここに委員各位の御尽力により取纏めが完了し、「鉄と鋼」臨時増刊号として発刊せられるにいたり、業界諸賢に聊かなりと裨益するところありとすれば、部会長として望外の幸と存ずる次第である。

昭和35年11月

鉄鋼技術共同研究会

特殊鋼部会長 石 原 善 雄